

## 腰掛待合・雪隠、玄関棟の修理工事が始まります

令和8年度から、茶室棟の露地施設（腰掛待合・雪隠）と玄関棟の工事が始まります。令和7年度は、工事に先立ち、素屋根の建設や、修理箇所の確認を行いました。

また、玄関棟については、令和6年度に実施した耐震診断によって補強が必要と診断されたため、補強の方法について検討が重ねられました。

### 露地施設（腰掛待合・雪隠）

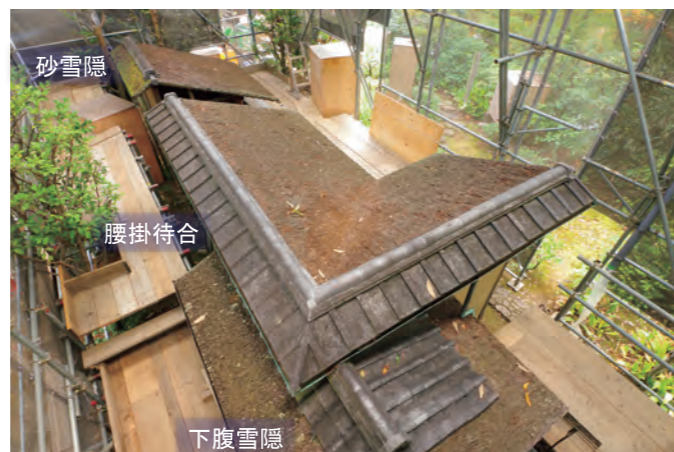


#### 【修理前の露地施設】

写真左から、下腹雪隠（したばらせっちゃん）※、腰掛待合、砂雪隠（すなせっちゃん）。

美術館所蔵の図面により、腰掛待合と砂雪隠は大正14年以前に建てられ、その後腰掛待合に接続している下腹雪隠廻りが改造されたようです。修理中の調査で明らかにできればと思います。

※下腹雪隠：装飾用の砂雪隠と異なり、実際に使用可能な厠。



#### 【腰掛待合と雪隠の屋根】

腰掛待合は、北側（写真左）と西側（写真手前）が瓦葺、庭（内露地）に面した南側と東側は檜皮葺で、下腹雪隠は瓦葺で檜皮の腰葺です。砂雪隠は檜皮葺で、棟に瓦を積んでいます。

檜皮葺は、経年により表面が摩耗し、苔が付着しています。

### 玄関棟



#### 【修理前の玄関棟】

美術館所蔵の工事関係書類により、大正8年頃に建てられたことが判明。

令和8年度の保存修理工事では、正面車寄せの唐破風屋根（⑥）の檜皮葺き替えと、耐震補強工事を実施します。



#### 【玄関棟地階】（現在は倉庫として使用）

古図面などの記録により、玄関棟の地階は、かつては玄関や和室が設けられた空間となっており、後世に改造されたことがわかりました。

耐震補強工事では、建築当初の意匠が残る1階部は手を加えず、すでに改変されている地階部分を中心に補強工事を行う予定です。

## 重要文化財

## 旧村山家住宅書院棟ほか3棟 保存修理事業

## 茶室棟の屋根修理が終わりました！



茅葺屋根の葺き替えが完了した茶室「玄庵」  
（手前の木箱は石燈籠を養生したもの）



公益財団法人香雪美術館が管理する重要文化財・旧村山家住宅では、令和6年7月より書院棟ほか3棟の保存修理工事が進行しています。

令和7年度は、茶室棟〔玄関・寄付棟、茶室「玄庵」(げんなん)、茶室「香雪」、及びその水屋〕の屋根の修理が完成しました。

令和8年度からは、露地施設〔腰掛待合・雪隠(せっちゃん)〕や、玄関棟の保存修理工事が始まります。

令和8年3月

公益財団法人香雪美術館

重要文化財・旧村山家住宅書院棟ほか3棟 保存修理事業 第3号  
発行日 令和8年3月  
発行 公益財団法人香雪美術館（神戸市東灘区御影郡家2-12-1）  
編集・協力 （一財）京都伝統建築技術協会〔設計・監理〕  
（株）安井奎工務店〔施工〕



バックナンバーはこちらから閲覧可能です。



本事業は文化庁の補助金を得て実施しています。

第3号

## 茶室棟の屋根の葺き替え工事が完成

令和6年度から工事を進めてきた茶室棟について、屋根の葺き替え工事が完成しました。建物を覆っていた素屋根が取り払われ、新しく葺き替えられた美しい屋根が姿を見せました。

### ◆茶室棟の玄関◆

土居葺(薄くそいだ板を重ねた下葺き)を葺き直し、特に傷みのひどかった大棟(おおむね)(写真中①)や降(くだ)り棟(②)の下には、雨漏り対策としてルーフィング(屋根材の下に敷く防水シート)を貼りました。古い瓦を可能な限り再利用し、屋根の反りに合わせて慎重に葺き直していきました。



### ◆寄付◆

土居葺を葺き直し、瓦の葺き替えを行いました。軒先の銅板葺は傷みが少なく、良好な状態でしたが、破損が見られた瓦と重なる部分(③)のみを葺き替えました。



### ◆茶室「玄庵」◆

軒蛇腹(のきじゃばら)(④)を補修し、茅葺の下地である竹小舞(たけこまい)(⑤)を取り替えました。茅は少しずつ重ねながら葺いていき、最後に刈り込みをして形を整えました。

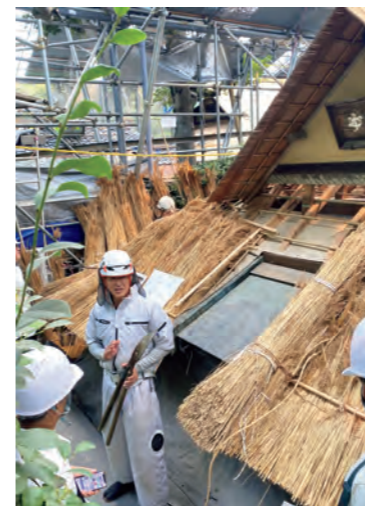


### ◆茶室「香雪」◆

土居葺を葺き直し、軒先の銅板葺を部分的に取り替えました。瓦は、昭和50年代に新調された三州(現在の愛知県東部)の瓦が使われており、ほとんど再利用することができました。



## 茶室「玄庵」の茅葺き見学会を開催！



令和7年8月下旬、主に美術館近隣にお住いの方向けに、茶室「玄庵」の茅葺屋根葺き替え見学会を開きました。葺き替え工事を担当する山城萱葺株式会社の山田雅史代表取締役社長(写真中央)より、作業について説明してもらいました。

新しい茅は葎(よし)材であり、淀川河川敷で刈り取られたものであるそうです。なお、「茅」というのは屋根を葺く草の総称で、最も多いものにススキ、珍しいものとしてはクマザサもあるということです。また、茅葺屋根は通気性が高いばかりでなく、意外にも防水性にも優れているとのこと。専用の大鋏を用いた茅の刈り込みの実演も行われました。特徴的な道具類を披露しながら、実演を交えての山田社長のお話に、見学者は皆、興味津々の様子でした。

当日は、小学生のお孫さんを連れた方など幅広い年齢層の方々をご参加下さいました。蝉時雨のやまぬ猛暑のなか、熱中症に気をつけながらの開催でしたが、伝統建築の世界、ひいては文化財を守り伝える大切さを地域の人々に知っていただく貴重なひとときとなりました。

### 山城萱葺株式会社 現場担当者 児玉 典史さんより

#### ■玄庵の茅葺屋根の特徴は？

茶室の屋根なので、矩勾配(かねこうばい・45度の勾配)以下で、茅葺き屋根としては勾配が緩い屋根です。また、正面は入母屋造、背面は切妻造で、渡り廊下との取り合い部分には斜め軒もあり、役物(やくもの・特殊な形状で葺くのが難しいところ)が多い屋根です。

#### ■今回の修理で特に気が付いたことは？

屋根のむくり※をなるべく抑え、シャープな屋根を心掛けました。また、屋根勾配が緩く、斜め軒もあるため、雨仕舞い(雨水が建物の中に侵入したり漏ったりするのを防ぐこと)にはいつも以上に慎重になりました。

#### ■茅を葺くにあたり苦労したことは？

真四角な屋根とは違い、役物が多いので角が多くなります。茅葺き屋根にとって角となる部分の屋根の線は、出来上がった屋根がどれだけ美しく見えるかということに直結します。屋根の線がぼやけないよう、鋏仕上げにはとても神経を使いました。 ※むくり:反り屋根とは逆に上に向かって湾曲している状態



「玄庵」の正面



「玄庵」の背面

## かつては茅葺屋根だった茶室「香雪」

保存修理工事では、建物に残る痕跡や史資料から建物の歴史を読み解いていくことも重要になってきます。

茶室「香雪」では、過去に小屋組(屋根を支える骨組み)のほとんどを取り替える大改修が行われていたことが今回の保存修理工事で明らかになりました。また、香雪美術館所蔵の古写真によって、建設当初は茅葺だったことが判明しました。

昭和51年から53年の間に、茶室棟の大規模な修繕工事が行われたことが当時の工事関係書類でわかっており、その時期に小屋組を改修し現在の屋根に変更したのではないかと考えられます。



香雪美術館所蔵の古写真より。屋根は茅葺(写真点線部分)で、庇も植物性の材(柿葺か檜皮葺)であった模様。



現在の香雪。屋根は軒先を銅板葺とした瓦葺きで、庇も銅板葺に葺き替えられています。